

シチュエーション別オススメ本

▶ 元気が欲しいとき…



『**のだめカンタービレ**』

二ノ宮知子  
講談社/¥420

カンタービレ(歌うように)“のだめ”こと主人公・野田恵の成長をコミカルに描いたクラシック音楽コメディ。[何もかも忘れてただ単純に笑える。落ち込んでいることすら忘れれます]

▶ ワクワクしたいとき…



『**SANCTUARY**』

史村翔原作 作画:池上遼一  
小学館/¥610

カンボジアでの戦乱から帰国した2人の主人公が日本の腐敗した政治体制を表と裏の世界から変革する。「ベンチャー企業経営者の多くも奨める1冊。僕は毎年大晦日に必ず読みます」

▶ 泣きたいとき…



『**アルジャーノンに花束を**』

ダニエル・キース 訳:小尾美佐  
早川書房/¥861

32歳になっても幼児の知能しかない主人公が、とある実験に参加し突如天才に変貌する。[生まれ変わって手に入れたもの、逆に失ったものを通して世の無情さを痛感させられます]



『**眠れぬ真珠**』

石田衣良  
新潮社/¥1680

女性版画家と17歳年下のウェ이터が過ごす美しく限られた日々を繊細に描いている。[恋は冷静さを失うときでもあるので、一旦立ち止まって真を見つめ直すことも大切だと気づかされます]

▶ 旅に出たいとき…

『**観光アート**』

山口裕美  
光文社新書/¥798

現代アートの新名所となりつつある直島、青森、金沢の今を紹介。日本全国1度は訪ねてみたい美術館100ガイド付き。[視点を換えさえすれば、身近に素敵な旅があることを教えてくれます]

▶ 結婚するとき…



『**あなたのためにいのちを支えるスープ**』

辰巳芳子  
文化出版局/¥2730

著者自らの介護体験と和洋の料理研究の果てに築き上げたオリジナルスープのすべてを紹介。「タイトル通り相手を思いやるのが料理であり、それは結婚生活にも繋がるものがある」

▶ 効率的に痩せたいとき…

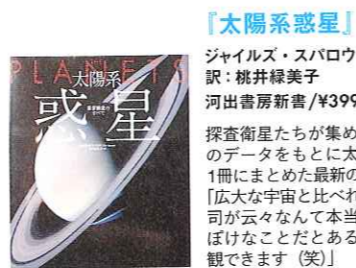


『**食品の裏側**』

安部司  
東洋経済新報社/¥1470

決して無害とは言えない食品添加物の実態を次々に明らかにした問題作。「痩せるにはやはり食べないのが一番。これを読めば食べること恐怖を抱くようになると思います」

▶ 上司に叱られて凹んだとき…



『**太陽系惑星**』

ジャイルズ・スバロウ  
訳:桃井緑美子  
河出書房新書/¥3990

探査衛星たちが集めた無数のデータをもとに太陽系を1冊にまとめた最新の写真集。「広大な宇宙と比べれば、上司が云々なんて本当にもちげなことである意味遠く観できます(笑)」

▶ 家を建てたいとき…



『**住宅巡礼**』

中村好文  
新潮社/¥2940

20世紀の偉大な先達たちの足跡を辿り、世界各地を訪れた建築家の旅と発見を綴る。「家って現実でもあり、ある意味では夢でもある。ですから、思いを馳せるのは自由かと(笑)」

▶ 子供が生まれたとき…



『**今日もお天気**』

桜沢エリカ  
祥伝社/¥820

自宅出産の書き下ろし漫画や育児経験談など著者の私小説的エッセイを多数収録した人気コミック。「子を持つ親なら誰もが「あるある」と言いたくなる。子育ての勉強にもなります」



年間およそ500冊は読むという氏の書棚には漫画から哲学書まであらゆるジャンルが同列に陳列されている。また「家族との時間も大切にしたい」と語るように、読書は毎日の通勤、そして出張時の移動時のみならず決まりごとを作っているんだとか。所有冊数は2000冊を優に超える

book concierge

ブックコンシェルジュ

読む側のコンディションを重視。



ブックコンシェルジュクラブ  
代表

近藤俊太郎さん

大学時代に友人へ本を奨めたことをきっかけに周囲からその感性が話題となり、クライアントが増加。以降、自称ブックコンシェルジュと名乗るに至る。サラリーマンという本業の傍ら、ほぼ無償で多くの人にそのコンディションに合わせた書物を奨めている。

プロが選ぶ  
こんなときはこれがオススメ。

泣きたいとき、元気が欲しいとき、などなど  
それぞれのシチュエーションに合わせた鉄板本をプロがセレクト。  
あなたに合った1冊がきっと見つかるはずです。

My Situation

▶ 日本を見つめ直すとき…



『**美しき日本の残像**』

アレックス・カー  
朝日文庫/¥714

日本文化に精通した著者が、過去の思い出や夢と共に愛情と憂いをもって日本の現実を描き、外国人初の新潮学芸賞受賞作。「日本人が見直すべき日本の魅力を気づかせてくれます」

もともと本を読む習慣が全くなかったと語る近藤さんが読書に目覚めたのは高校時代。「僕の母校では読書が試験問題の3割を占めていたんです。いくら勉強しようとも、その本を読まなければ70点しかとれない。逆に本さえ読んでいけば赤点は免れるといった変わったシステムだったんです。本を読むようになったのはそれから」という。一方、他人に本を薦めるブックコンシェルジュなる立場についてはこうも語る。「読む側のコンディションひとつでその内容は薬にも毒にもなる。僕が最も得意としているビジネス系や新書系も受け止め方によっては鬱に入り込む方だっているワケで。ですから、基本的にはしっかりとヒヤリングを行いながら、その方に合った本を奨めています。そんな氏のマイブームは科学と哲学なんだとか。